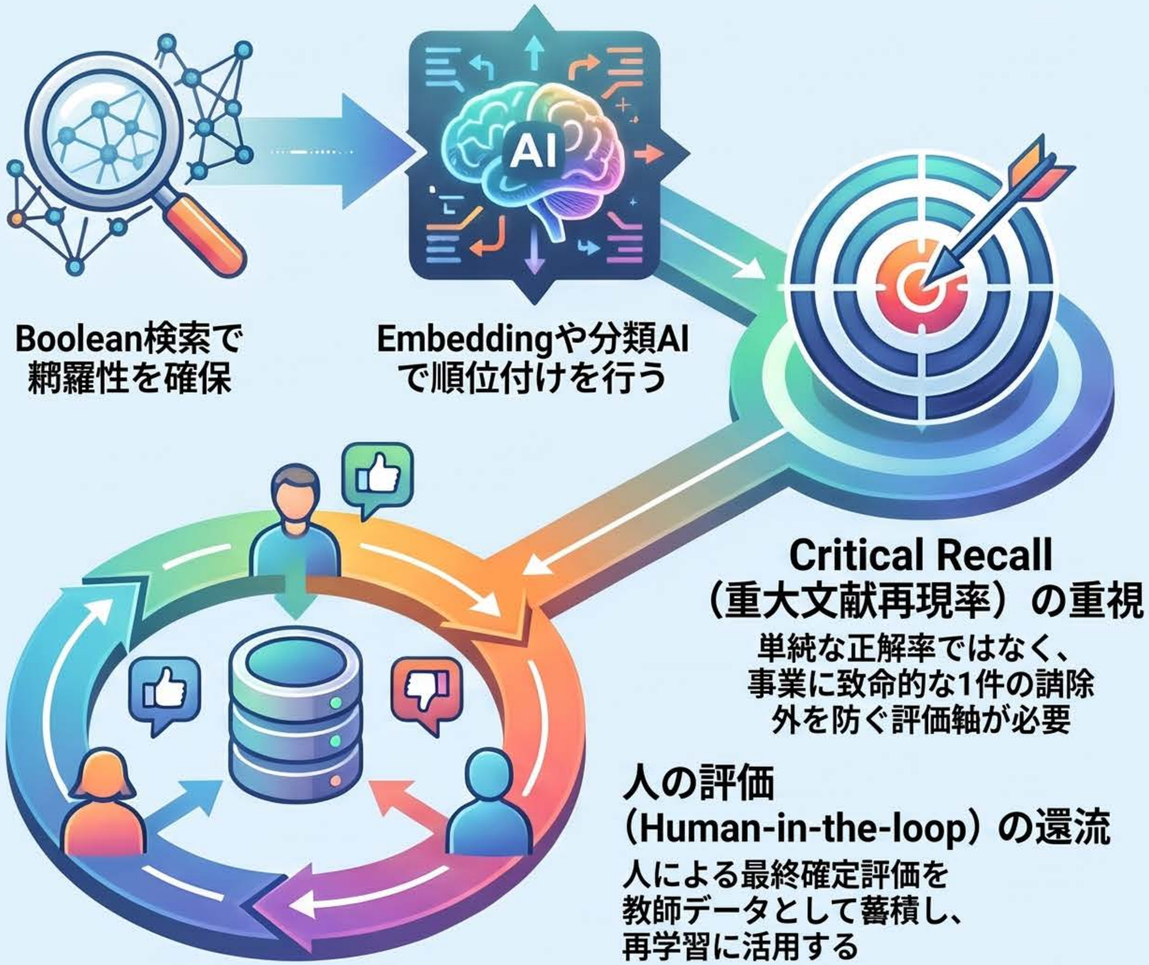
生成AI時代の特許SDI：理想的アーキテクチャと将来展望

日本の特許SDIへの生成AI統合は多様。誤除外リスクを防ぐには、単一LLMに頼らない多層アーキテクチャと「Critical Recall」の管理が必須であり、今後は社内データと連動する連続的知財インテリジェンスへと進化する。

高Recall検索とAI再ランキングの融合



Boolean検索で網羅性を確保

Embeddingや分類AIで順位付けを行う

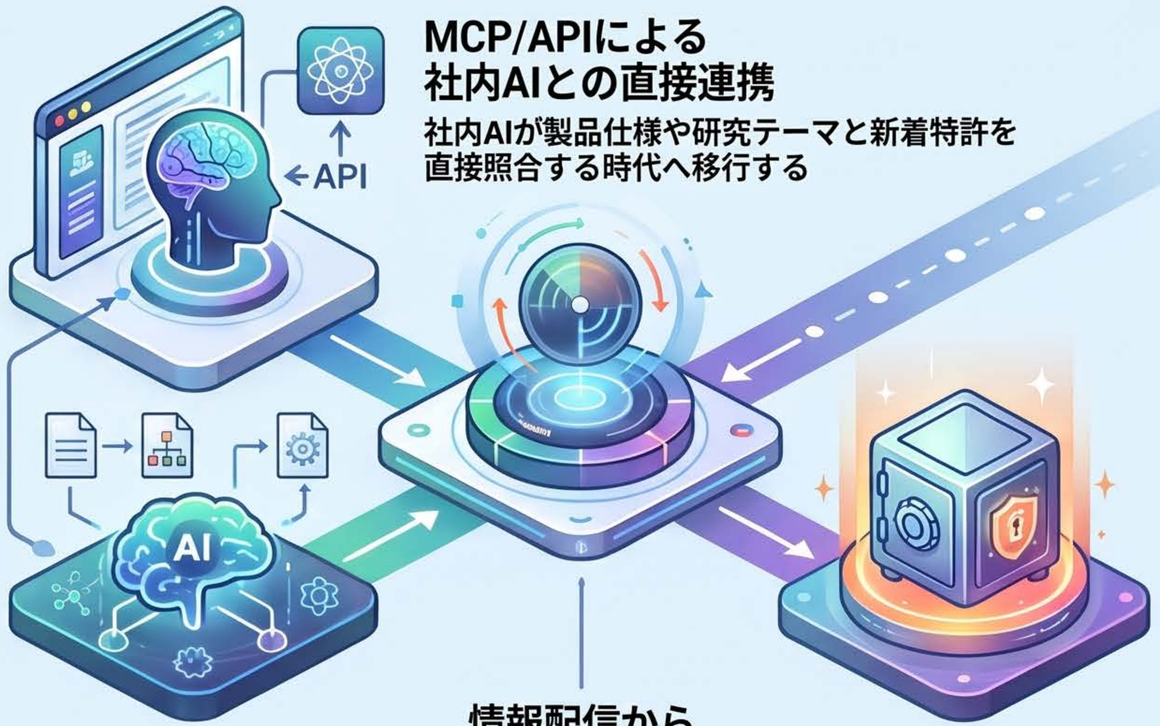
Critical Recall（重大文献再現率）の重視

単純な正解率ではなく、事業に致命的な1件の誹除外を防ぐ評価軸が必要

人の評価（Human-in-the-loop）の還流

人による最終確定評価を教師データとして蓄積し、再学習に活用する

特許SDIの将来像：Continuous Patent Intelligence



MCP/APIによる社内AIとの直接連携

社内AIが製品仕様や研究テーマと新着特許を直接照合する時代へ移行する

MCP/APIによる社内AIとの直接連携

社内AIが製品仕様や研究テーマと新着特許を直接照合する時代へ移行する

情報配信から「連続的リスク監視」への進化

競合・技術・権利状態を継続更新するインテリジェンス基盤へと変貌する

企業の最大資産は「自社独自の判定履歴」

汎用LLMではなく、過去の判定・改訂履歴こそが競合優位性の源泉となる

Gemini Notebook